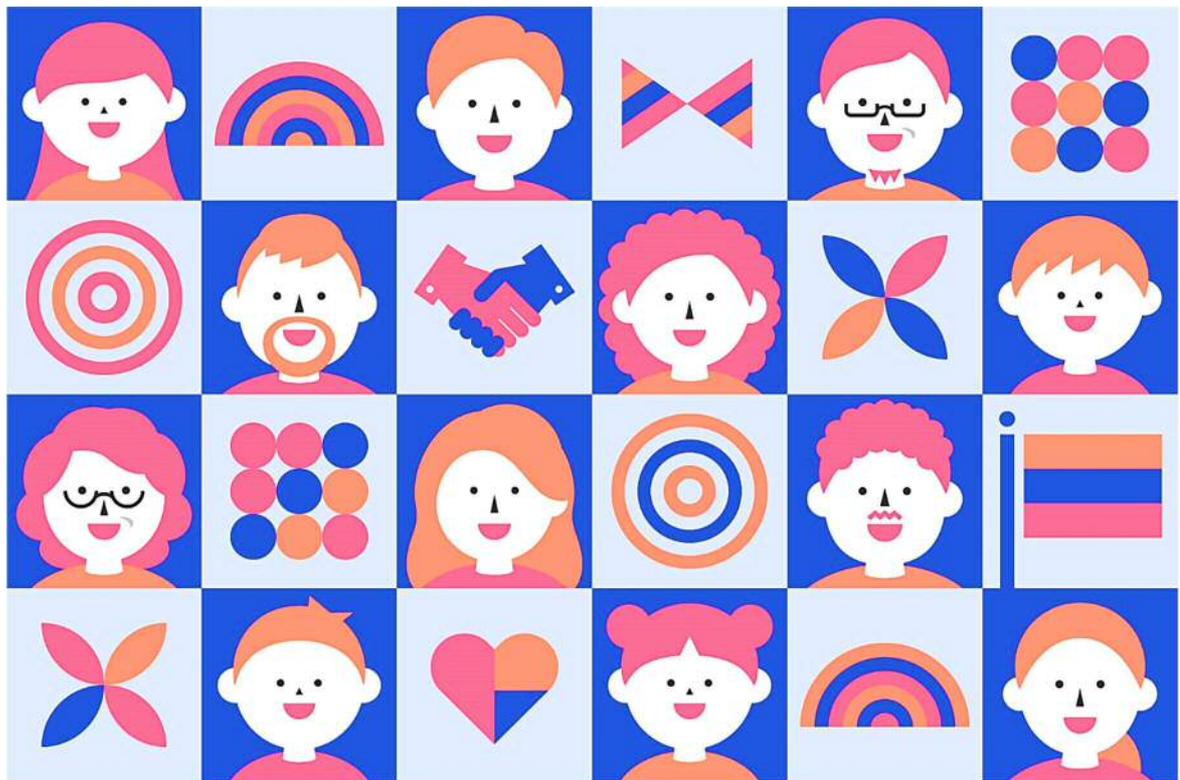


令和3年度（2021年度）版
教職員向け男女共同参画リーフレット

女だから、男だから、ではなく、 私だから、の時代へ



越谷市 人権・男女共同参画推進課

はじめに

越谷市では令和3年3月に「第4次越谷市男女共同参画計画」を策定しました。「男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり」、「男女が輝き活躍できるまちづくり」、「男女が安心して暮らせるまちづくり」、「男女共同参画社会を阻む暴力の根絶」の4つを基本目標とし、令和12年度までの事業を実施していきます。

社会においては依然として、「男だから、女だから」といった性別による固定的役割分担意識が根強く残っています。それ自体がすべて否定されるものではありませんが、無意識に発せられた言動が、誰かを傷つけ、「自分らしく」生きることを妨げてしまうことがあります。しかし「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）」は長年にわたり積み重ねられ、身につけたものであり、意識を変えるのは簡単なことではありません。だからこそ、幼少期から多様性を認めあう意識を育てていくことが重要であり、子どもたちの育成に関わる全ての大人の責務と言えます。

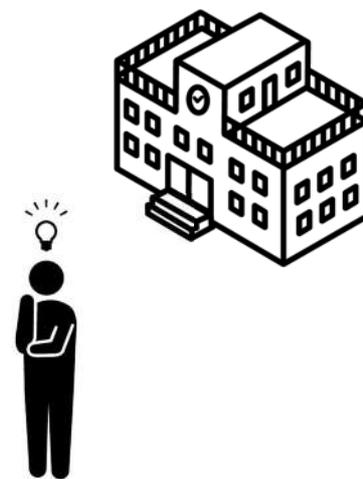
「アンコンシャス・バイアス」（無意識の思い込み、偏見）とは？

アンコンシャス・バイアスとは、誰もが潜在的に持っている偏った見方であり、育つ環境や所属する集団の中で知らず知らずのうちに脳に刻み込まれ、既成概念や固定観念となっていきます。

学校現場においては、男女混合名簿や整列時に性別で分けないようにするなど、男女平等の意識、配慮が広がりつつあります。しかし、本当に学校の中に「アンコンシャス・バイアス」はなくなったと言えるのでしょうか。

このような思い込みや声かけに、心あたりはありませんか？

- ・さすが、男子／さすが、女子！
- ・休み時間に教室でひとり、本を読んでいる男子が心配...
- ・男子も調理実習、ちゃんと手伝ってね。
- ・女子はほうきで掃いてね。男子はこの荷物運んで！
- ・〇年生だったら、これくらいはできるよね？
- ・実験結果の記録は女子がしっかりまとめてね。
- ・女子生徒の制服はスカートなのが当然
- ・「親はパートに出ています」と聞いて、母親のことだと思い込む



大人が教えるつもりはないにも関わらず、無意識の声掛けや行動により、子どもたちが「それが当たり前」であると学習してしまうことがあります。たとえほめる場合であっても、「男だから」「女だから」「〇年生だから」という属性に触れることは、こうあるべきというメッセージになりかねません。慣れてしまうと「おかしい」ということに気づけないのがアンコンシャス・バイアス。今一度、日頃の言葉がけや行動について、見直してみませんか。

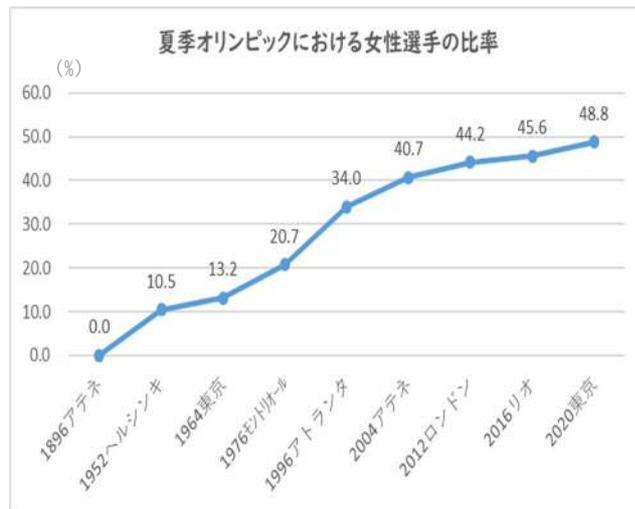
スポーツにおける男女共同参画

新型コロナウイルス感染症の拡大により、史上初の1年延期しての開催となった東京オリンピックですが、1896年に開催された第1回アテネ大会は女性には門戸が開かれていませんでした。女性が選手として初めてオリンピックに参加できるようになったのは、1900年のパリ大会から。女性選手の割合は2.2%で、女子種目はテニスとゴルフのみでした。女性が参加可能な競技割合が5割を超えたのは1976年のモントリオール大会。そして2012年ロンドン大会においてボクシングに女子種目が加わったことで、全競技での女性参加が可能となりました。

「多様性と協調」をテーマに開催された今大会では、女子選手の比率は過去最高の48.8%となり、柔道の混合団体や卓球ダブルス等、男女が一つのチームを組んで競う種目に注目が集まりました。

また、性的少数者であることを公表して参加した選手は前回リオデジャネイロ大会から3倍以上に増加。トランスジェンダーの選手が出場を認められるなど、競技におけるジェンダー平等に関しては大幅に前進したと言えます。

一方、大会運営に関しては、女性蔑視とも受け取れる発言によるトップの辞任、関係者の過去のいじめや人種差別的言動による解任辞任など、テーマに反する出来事が次々と起こり、真に「多様性」を認めあうことの難しさも考えさせられたのではないのでしょうか。



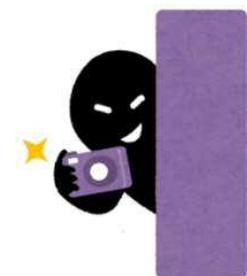
平成30年版男女共同参画白書/日本オリンピック委員会資料より

SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

今回のオリンピックでは、スポーツを性的対象として見ることに抗議するため、レオタードではなく脚全体を覆う「ユニタード」で競技に臨んだ女子体操選手が話題となりました。子どもから大人まで楽しめるスポーツのはずが、選手の画像や動画を性的目的のSNS投稿やWEBに掲載するなど、絶対に許されない卑劣な行為です。学校現場においても、体操や水泳、陸上などの競技において同様の被害が報告されています。

選手の盗撮問題はこれまで、個別の大会ごとに対応されてきましたが、オリンピックを契機に、選手が安心して活躍できる環境を整えるため、日本オリンピック委員会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟など、スポーツ関連団体が協力し、取り組み強化を始めています。

盗撮と思われる行為を見かけた場合は、大会主催者にお知らせください。



「パートナーシップ宣誓制度」がスタートしました

性的少数者は特殊な存在。そうってはいませんか？LGBTQ+などの性的少数者は約11人に1人（※）の割合で存在すると言われています。1クラスに3人くらいは当事者がいる、そう考えると決して「自分には関係ない」とはならないはずです。※電通ダイバーシティラボ 2020年調査

性的少数者の多くの方は差別や偏見を恐れ、当事者であることを「言わない」「言えない」、あるいは子どもの頃から戸惑いを覚えながらも当事者と悟られないよう生活しているなど、様々な生きづらさを抱えています。



越谷市ではこうした性的少数者の方を応援するため、令和3年4月1日から「パートナーシップ宣誓制度」を導入しました。本制度は、一方又は双方が性的少数者であるお二人が、互いを人生のパートナーとし、継続的な共同生活を行うことを約した関係であることを宣誓し、市が公的に証明する制度です。法律上の婚姻や相続、税金の控除などの権利や義務は生じませんが、自分らしく活躍できる一つのきっかけとなることを期待するものです。

性の多様性～誰もが持っている“SOGI”とは？～

SOGI（ソジ／ソギ）とは、「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」を略したものです。性的少数者も、そうでない人も、誰もが「SOGI」という、多様な性のグラデーションの中を生きています。「性別」は男か女のどちらかだと考えている人が多いのではないのでしょうか。ひとりひとりに個性があるように、その表れ方や組み合わせも十人十色です。自分の、そして周りの人や子どもたちのSOGIに目を向けてみませんか。



発行：越谷市市長公室人権・男女共同参画推進課

電話：048-963-9113（直通） E-Mail：jinkendanjo@city.koshigaya.lg.jp